

单元名

『大きなおにぎり』のパネルシアターをしよう

单元目標 身につけさせたい力

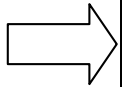
○指導目標

・物語のあらすじが分かり，登場人物の行動を理解してパネルシアターを操作させることができる。

○指導要領指導事項

・場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

(C 読むこと ウ)



单元を貫く言語活動

『大きなおにぎり』のパネルシアターをしよう

言語活動を行うために必要な力

◎物語の読み聞かせを聞いたり，物語を演じたりすること。

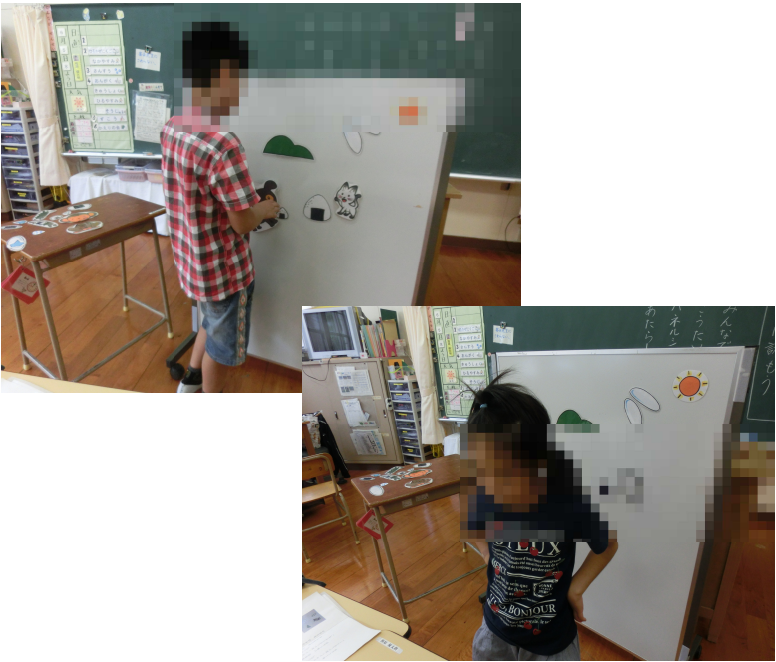
○本や文章を楽しんだり，想像を広げたりして読む。

○文章を正しく読んだり書いたりする。

・言葉には，意味による語句のまとまりがあることに気づく。

・長音，拗音，促音，撥音などの表記に気づき，正しく読んだり正しく視写したりする。

・句読点の打ち方やかぎ「 」の使い方に気づき，正しく視写する。



单元計画と指導構想

『大きなおにぎり』のパネルシアターをしよう			
【第1次】（言語活動の見通しをもつ段階）	【第2次】（見通しをもとに，場面の様子を読み取る段階）		【第3次】（言語活動の目的を達成する段階）
<div>教師が準備した『大きなおにぎり』のパネルシアターを見て，自分たちも演じてみたいという意欲と，主人公になってせりふを言って演じる单元への見通しを持つ。</div> <div>(パネルシアター) (1時間)</div>	1 あらすじをとらえる。 (1時間)	2 おにぎりの大きさが変わること注目して，登場人物がしたことを読み取る。 (7時間)	
	1 場面を音読する。	2 場面を視写する。	3 場面のパネルシアターをする。
並行読書 → 「いろいろごはん」			
			○場面を意識して，登場人物の気持ちになってせりふを言う。 ・おにぎりの大きさの変化を意識しながら，パネルシアターを楽しく操作する。 (1時間)

手立て

第1次	第2次	第3次
○教師による『大きなおにぎり』の範読・パネルシアターをする。 ○『大きなおにぎり』のお話を，パネルシアターで演じた後，自分たちでパネルシアターを行うことを伝えて，意欲付けをする。	○抜けやすい助詞に○印をつけて，意識して正しく読む。 ○音読の時，登場人物のせりふの言い方を工夫して表現させる。 ○さし絵をもとに，場面毎に視写を行わせ，おにぎりの大きさが変わっていくことに注意を向けさせて，登場人物の行動や気持ちをとらえさせる。 ○視写の後に，読みを確かめさせるために，おにぎりの変化と会話の確認を行わせる。 ○場面を確認して登場人物の気持ちを想像しながら，パネルシアターでせりふを言わせる。	○登場人物やおにぎりのパネルを，わかりやすい（見て手に取りやすい）配置で机上に並べる。 ○自分のペースで行うことで，パネルの操作とせりふを表現しやすくする。

実践の成果

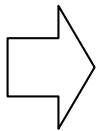
○変化のあるさし絵を提示することで，物語の流れがとらえやすかった。

○教師とのやりとりで読み取りを深めることができた。

○個に応じたプリントを用意することで，スムーズに視写することができた。

○毎時間最初に通して音読することで，音読のつまずきが少なくなった。

○食べ物に関する教材は，子どもたちの関心を持続させやすかった。



課題

○子どもと教師の読みを深める場を工夫する。

○パネルシアターを生き生きと操作できるように，もっと行動を伴った読み方を多く取り入れる。

○教科書のみならず，自由なせりふで表現させる場面を増やす。

○発表する場を設定する。（お客さんを迎える など）